



# 南っ子だより



学校教育目標 「共に輝く たくましい 南っ子」

重点目標 「自分の考えをもち、表現しよう」「人を大切にしよう」「目標に向かって、挑戦しよう」

文責 飯田 英晃  
伊豆市柏久保 425-1  
0558-72-0149

「好きこそものの上手なれ」「若い時の苦勞は買ってでもせよ」

伊豆市立修善寺南小学校長 堀江 健司



ついこの前、入学式で1年生を迎えたかと思ったら、もう卒業式かと思うほど、時の流れははやいものです。来週の卒業証書授与式をもって、本年度の全教育課程を修了します。先日行われた6年生を送る会は、感動とあたたかさにつつまれ、よい会となりました。よい思い出になったと同時に、各学年の子供たちの成長を実感しました。普段から落ち着いた授業が展開されたことも成長に繋がっています。子供たちの学びや成長は、これからは継続されていくものですが、一つの区切りとして、満足感や達成感、成長感を確かめるのもよいでしょう。もちろん、個々の悩みやストレスは大小の差はあるが誰にも存在します。来年度も個に寄り添った教育を展開していきます。今日に至るまで、保護者をはじめ関係された多くの皆様のご尽力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

上記の言葉は、最近あまり聞きませんが、ともに自分を成長させる教訓です。

「好きこそものの上手なれ」は、好きなことは熱心に行うから、自然に工夫し勉強するようになるので非常に上達もはやくなることですが、脳科学的には「ドーパミン」という物質が放出されることで起こるようです。このドーパミンは、自分の実力を出し切って、やっと越えられるようなハードルがあるときに、一番良質のものが分泌されます。そのハードルというのは他人に与えられたものではなく、自らが挑戦したい、と思うものであることが重要です。だから、好きなことがいいのです。上手く利用すれば、充実感を得ながら、効率よく物事を進めることができます。「目標達成意欲」となり成長につながります。ただ、このドーパミンは、付き合い方を間違えると「依存」となってしまいます。ギャンブル、ゲーム、スマホなど様々な依存にドーパミンが影響しています。未発達なうちは、これらにふれさせないようにしたいものです。

「若い時の苦勞は買ってでもせよ」は、若い時の苦勞はその体験が将来役に立つから、自分から買って出ても苦勞せよということですが、今時こんなことを言うと反感をかうかもしれません。苦勞しないことにこしたことはありません。「課題」「負荷」という言葉に置き換えてみましょう。「課題」や「負荷」を乗り越えることで、克服する力がついてきます。より大きな「課題」「負荷」への対応力、回復力、自己解決力がつき、成長に繋がります。苦勞がわかっていながらそこに身を投じるのはかなりの精神力がいりますが、準備段階として、あまり変わらない選択肢があったときに、「負荷」がかかる方を選ぶことはできそうです。

ある幼稚園での話です。一人の園児が登園し、外遊びに出るため靴をはこうとしていました。なかなかうまくはけない園児の傍らに先生が立っていました。それを見ていた母親は、なんて不親切な先生だと言いました。しかし、この先生は、この園児がもうすぐ自分一人で靴が履ける段階にあることを知っていました。だから、あえて見守るだけで手を出さなかったのです。もし、ここで先生が手を出し履かせていたら、この園児の満足感、達成感を奪うことになっていたでしょう。何が何でも負荷をあたえればよいというわけでもありません。無理な負荷は逆効果です。個に応じて、発達段階の応じて負荷をかけることが成長に繋がると思います。



# 1年間の成長



令和6年度が、あと1週間ほどで終わろうとしています。6年生にとってははいよいよ卒業、伊豆中学校の第I期新入生としての生活が待っています。1~5年生も、現在の学年での学習、生活のまとめをした後は、それぞれ「次」の学年への進級の準備となります。子供たちにとっては、あっという間の1年間ではなかったかと思います。この1年間でできるようになったこと、心身の様々な成長を土台として、また「次」のステージでの活躍に期待したいと思います。保護者の皆様のご理解とご協力、誠にありがとうございました。



## ありがとう 6年生(6年生に感謝する会)



4月から登校班や委員会、クラブ等、学校生活の様々な場面で、リーダーとして下級生を引っ張った6年生。そんなお兄さん、お姉さんたちに感謝の気持ちを表そうと、3/7(金)に「6年生に感謝する会」が開かれました。

当日は5年生の実行委員を中心として、各学年から「ありがとう」の気持ちがたくさん詰まったプレゼントや出し物がありました。6年生の中には、感激のあまり涙を流す子も見られたほど、心温まるひとときとなりました。また、6年生からのお礼の出し物も、「さすが最上級生」と思わせる素晴らしいもので、1~5年生も、改めて6年生のすごさを実感したと思います。

会の締めくくりには、6年生代表から5年生代表への児童会旗の引き継ぎも行われ、5年生にとってははいよいよ、「次は自分たちの番だ」という思いを強くしたことと思います。

南っ子の思いが一つになった、とても素敵な「感謝する会」でした。

今後の予定等については、随時すぐーるで連絡をさせていただきます。